「治安対策（子どもの見守り）」に関するアンケート　リサーチプラン

1. 調査の背景と目的

　大阪府では警察や市町村と連携して、街頭における犯罪や子どもの犯罪被害の防止に向けた取組みを重点的に実施している。一方、子ども（13歳未満）に対する「声かけ事案」は過去５年間において増加傾向であることから、地域の見守りに関する府民の認識を確認し、子どもが安全・安心に通学できるより効果的な取組みを推進していくことを目的に本調査を実施する。

1. 調査（検証）項目

仮説１　地域における子どもの見守り活動が大事であると思っている人の割合は、子どもの有無に関わらない。

仮説２　子どもがいる家庭の方が、子どもがいない家庭に比べて地域における子どもの見守り活動へ参加する人が多い。

仮説３　子どもがいない家庭の中でも、高齢層の方が、若年層や中間層に比べて地域における子どもの見守り活動へ参加する人が多い。

仮説４　地域における子どもの見守り活動に参加していない人であっても、登下校時の見守りや自主ボランティアによるパトロール等の既存の見守り活動に比べ、日時等が拘束されない見守り活動なら参加しやすい。

1. 調査対象　国勢調査結果（平成2７年）に基づいた、性・年代・居住地（４地域）の割合で割り付けた、18歳以上の大阪府民1,000サンプル
2. 質問項目

予備質問　5問

SC1　年齢（N）

　　SC2　性別（SA）

　　SC3　都道府県（SA）

SC4　市町村（SA）

SC5　職業（SA）

本質問　6問

　　Q1　子どもの有無（SA）

　　Q2　地域における子どもの見守り活動についての認識（SA）

Q3　地域における子どもの見守り活動への参加の有無及び参加した活動の種類（MA）

　　Q4　【地域における見守り活動に参加していないが見たことがある人】見たことがある活動の種類（MA）

Q5　【地域における見守り活動を見たことがある人又は知らない人】地域における子どもの見守り活動に参加しない理由（MA）

Q6　スマートフォンの活用により日時を拘束されずに日中の地域の見守りに貢献できる場合の参加の有無（SA）

1. 検証方法

仮説１　Q1×Q2

仮説２　Q1×Q３

仮説３　Q1×SC1×Q３

仮説４　Q３×Q6